

| 科目名 | サブタイトル | 担当教員 | 配置学年 |
|-----------|---|--|-------|
| 情報リテラシーIB | 情報化社会でのPCの効果的利用 | 植村 明生 | 2年次後期 |
| 講義の目的 | 企業や一般社会、研究においてもコンピュータの活用は必要不可欠なものとなっている。本講義では、効率的かつ安全なコンピュータの活用法を学ぶことが目的である。 | | |
| 到達目標 | (1) インターネットでの情報の扱いや危険性について理解し実践できること (2) ワードプロソフトを利用しビジネス文書や報告書を作成できること (3) 表計算ソフトを利用しデータの分析やグラフの作成ができること (4) プレゼンテーションソフトを利用し効果的なプレゼンテーション資料を作成できること | | |
| 講義内容 | 本講義は、「情報リテラシーA」とともに一連の内容を扱う。「情報リテラシーB」では、表計算ソフトにおけるデータ処理及びプレゼンテーションソフトの活用について実習を通して学ぶ。また、ワードプロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト相互の連携やより実践的な使い方を通し、様々な場面に対応できるコンピュータスキルを身に付ける。 | | |
| 講義スケジュール | 第1講 | コンピュータ知識 | |
| | 第2講 | 情報通信ネットワーク | |
| | 第3講 | ICTを活用した問題解決 | |
| | 第4講 | 表計算ソフトの活用：表示形式、条件付き書式 | |
| | 第5講 | 表計算ソフトの活用：高度なグラフ、ピボットテーブル | |
| | 第6講 | 表計算ソフトの活用：データベースの活用、マクロの作成 | |
| | 第7講 | 表計算ソフトの活用：ワードプロソフトとの連携 | |
| | 第8講 | 表計算ソフトの活用：練習問題 | |
| | 第9講 | 表計算ソフトの活用：小テストと解説 | |
| | 第10講 | プレゼンテーションソフトの活用：作成、オブジェクトの挿入、構成の変更 | |
| | 第11講 | プレゼンテーションソフトの活用：特殊効果、印刷、他のアプリケーションとの連携 | |
| | 第12講 | プレゼンテーションソフトの活用：スライド共通デザイン、便利な機能 | |
| | 第13講 | プレゼンテーションソフトの活用：練習問題 | |
| | 第14講 | プレゼンテーションソフトの活用：課題発表(1) | |
| | 第15講 | プレゼンテーションソフトの活用：課題発表(2) | |
| 方法指導 | 本講義は講義と演習を並行して行う科目である。授業に出席し、かつ、PCで毎回出題される課題を完成させることが重要となる。必要に応じて宿題を課すことがある。 | | |
| 授業外学習 | 事前学習として、テキストを一読し、PC上の操作より目的をまずはっきりさせておくことが重要である。事後学習としては、操作をもう一度PC上で再現し、可能であれば別のファイルでも習った機能を使ってみることで、利点や問題点が明らかとなる。また、様々なケースについて機能を適応させることの繰り返しによって、PC活用の熟達度を上げることができる。 | | |
| 成績評価方法 | 本試験(筆記試験)：20%、平常点(授業内課題と練習問題、小テスト)：80% | | |
| テキスト | 「情報リテラシー アプリ編 (Windows 10・Office 2016 対応)」FOM 出版 ISBN コード 978-4-86510-247-5 | | |
| 書籍参考 | 講義内で適宜指示する。 | | |
| 事項特記 | 「情報リテラシーA」(前期)と同じクラスで受講すること。 2018年度は開講しない。 2018年度入学者は2年次(2019年度)以降に受講する。 | | |